

第 44 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事概要

日時：2022 年 12 月 8 日（木）午前 11 時から正午まで

場所：愛知県庁本庁舎 6階 正庁

1 挨拶

大村知事：

本日は、第 44 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議に参加いただき感謝する。

前回の会議は、11 月 1 日から第 8 波に入り、今後 12 月を迎えるうえで、感染者数の伸びは鈍化したものの、まだ増えているということと、インフルエンザの同時流行も懸念されるため、感染防止対策の徹底をお願いしたく開催した。

前回の会議から約 10 日が経っているが、感染者数は先週、今週はほぼ横ばいで、入院状況は少し遅れて反映され、昨日の時点で、最大確保病床数 2,129 床に対する使用率が、50%の 1,064 床を超えた。

国と協議をし、まずは県独自の宣言等で対応をして、それでも状況が改善しない場合、国の医療ひっ迫防止対策強化宣言とするということであったため、まずは県独自の宣言を昨日発表し、ここで意見をいただいた上で正式に発出したいと思っており、第 8 波の感染拡大の抑制に向け、愛知県独自の医療ひっ迫防止緊急アピールを出させていただく。

期間は 12 月 8 日から 1 月 15 日までとし、年末年始には帰省、初詣、新年会、忘年会等の様々な行事があるが、感染防止対策をしっかりと行っていただきたい。また、医療のひっ迫を招かないよう、8 月の経験を踏まえて、例えば発熱をした場合でも、すぐに医療機関を受診するのではなく、保健所等の様々な窓口を用意しているため、まずは電話で相談をしていただきたい。また、救急外来等は控えていただきたいということなどを今回盛り込んで、感染防止対策の更なる徹底と、医療体制の確保を呼びかけるものである。

この医療ひっ迫防止緊急アピールと併せ、感染防止対策の徹底、またオミクロン株対応ワクチンは十分な量があるため、接種券が届いたら、年末年始を迎える前に速やかに打ち、備えていただきたい。

オール愛知一丸となって、第 8 波を克服し、安心な日常生活と活力ある社会経済活動を取り戻していきたい。県民・市民の皆様の協力をよろしく願います。

2 議題（1）新型コロナウイルス感染症対策について

大村知事：

資料1について、愛知県医療ひっ迫防止緊急アピールである。このメッセージは昨日出したが、10月から厳重警戒での感染防止対策、11月から第8波という認識であり、これからの季節は気温の低下など、感染症が流行する条件が重なると季節性インフルエンザも懸念される。改めて三密の回避、感染防止対策の徹底、感染拡大とインフルエンザ流行の防止、ワクチン接種を速やかにお願いしたいということのアピールとして述べ、次のページに、その内容をまとめた。

1点目は医療体制の機能の維持・確保のためのお願いであり、発熱等の症状が出たときは、まずはかかりつけの医療機関や保健所に設置されたフォローアップセンターに電話相談のうえ、県が指定した診療・検査医療機関を受診していただきたい。緊急でない場合は、休日・夜間の救急受診は控えて、平日の日中にかかりつけ医に行っていただきたい。また、救急外来と救急車の利用は、真に必要な場合に限っていただきたいということを重ねてお願いする。8月のお盆前後に大変ひっ迫したため、このような通知を出させていただいた。

2点目が感染拡大防止のための協力要請であり、県民の皆様への協力要請ということで、日々の体調チェックや定期的な検温、基本的な感染対策の再徹底、オミクロン株対応ワクチンの接種、混雑した場所や感染リスクの高い場所への外出などは控えていただきたい。

また、事業者の皆様に対しては、テレワーク等の推進、イベント等での感染対策の徹底をお願いし、また、業務継続体制の確保のためのお願いもする。

参考資料1について、感染者の状況である。12月7日時点であるが、入院が単日で1,116人であり、1,064人を超えた。確保病床以外にも651人入院しているため、入院全体では1,767人であるが、実は、元々入院されていたが院内でクラスターになり、そのまま入っているという方が結構いる。10月1日に厚労省から、確保病床を確保して、病床使用率が50%を割ると補助金を切るという通知が出たため、医療機関では病床使用率が50%となるよう、確保病床の方に振り替えているという実態があり、今すぐ全く入院できないということではない。

また、重症者数が今日時点で26人であり、約1,100人が入院して重症者が26人であるため、何とかまだ持ちこたえているという状況である。

新規陽性者の過去7日平均は6,844人であるため、なかなか厳しい状況である。8月は約1万5,900人まで上がったため、8月に比べればまだ半分以下の約4割である。

参考資料2について、8月頃の状況との比較を整理した。確保病床入院状況は50%を超えたが、発熱外来のひっ迫状況は、第7波である7月、8月と比べると、発熱外来で受診される方は約半分という状況であり、8月のような病院、医療機関に長蛇の列ができて医療機能が一部ダウンするようなことにはなっていない。

名古屋市内の救急搬送困難事案も、8月のお盆の前が273件で第7波のピークであったが、11月28日～12月4日が、増えてもまだ101件ということで、名古屋市の救急の関係者が頑張っていたということだと思うが、8月ほどまではいかず持ちこたえている。重点医療機関の医療従事者の欠勤状況について、8月の段階では、平均23.8人だったが、12月6日は8.2人ということで約3分の1である。

これらの状況も踏まえ、国の宣言ということではなくて、県の独自の緊急アピールとさせていただいた。

また、国の医療ひっ迫防止対策強化宣言の意思表明を北海道、宮城、長野が行ったが、国と話をせずには独自で行うということとなり、まだ国の宣言を出したところはない。国の宣言は最後の切り札として使いたいということである。

なお、愛知県の10万人当たりの感染者数は全国で21番目であるため、愛知県が先頭を切っていくわけにはなかなかいかない。10万人当たりの感染者数が多い順に、宮城、秋田、福島、北海道、山形となっており、明らかに東北の地域が多い。中部地区では長野県が7番目ということで、やはり寒冷が厳しいことが原因であると思っている。

県独自の宣言は、昨日、秋田と愛知県が出した。北海道はまだ出していない。

また、国の指標のレベルについて、今はレベル2のフェーズ2で1,690床の確保病床であるが、数値だけなら、1,948床でレベル3に上げることも考えられるが、8月にBA.5対策強化宣言を出した際、病床フェーズはレベル2で対応したため、医療関係者と相談しているが、基本はこのフェーズ2で対応し、一般病床を確保しないと冬は大変である。確保病床を増やせば一般病床を削ることになるため、フェーズ2で当面对応したい。

参考資料3、4について、ワクチン接種状況等である。

参考資料5について、県の大規模集団接種会場では予約なし接種を12月9日、15日から始める。

参考資料6について、予算の累計が1兆4,000億円を超えており、しっかりと取り組んでいきたい。

(有識者・関係団体・政令市・中核市意見)

医療専門部会 長谷川部会長：

感染者の増加に伴い、入院、救急外来ともに患者数は増加している。FRESH-AICHIのデータでは、即応病床の稼働率が70～80%となっているが、酸素投与が必要な方や重症者は少なく、軽症の高齢者の入院が主体となっている。

高齢者の感染での課題が、入院適応がなくても自宅療養ができないという理由で入院希望の方があり、感染をしても、自宅で介護が継続できる体制の強化が必要であると考えている。往診の医師、訪問看護師を中心に、病状把握とフォローアップを行っていただき、介護関係者には食事や日常介護を行っていただくなど、感染しても変わらない体制で高齢者を見守っていただけると、今の新型コロナウイルス感染症の病状ならば十分自宅療養が可能となってきている。

県民においても、ウィズコロナへの移行として高齢者の自宅療養について協力をお願いしたい。

また、冬場に向かい寒さによる心筋梗塞、脳梗塞の救急疾患が増加している。生死に関わる患者の受け入れを滞りなく実施するためにも、過剰な救急要請を自制していただきたい。夜間や休日に発熱したからといって慌てることなく、市販の検査キットをあらかじめ準備していただき、自分で検査をし、感染を疑えば翌日かかりつけ医に相談していただければ十分対応できる状況になっている。安易な救急車の利用は避けていただきたい。

ワクチン接種について名古屋市の貴重なデータがあるが、接種回数が増えれば、重症化率、死亡率は当然減るが、感染した時の発熱も下がるとのことである。ワクチン接種は大変有効であるので、機会を見つけて受けていただきたい。

今後の感染状況の予想について、11月30日の国のアドバイザリーボードのデータでは、感染したことによる抗体の保有率が愛知県では27.5%と言われている。沖縄は46.6%、大阪が40.7%、東京が31.8%であり、他県に比べて少し低い。ワクチン接種による効果で重症化は抑えられてはいるが、感染を抑え込むには十分とは言えないかもしれない。

年齢別では、10歳代が38%であり高いが、60歳以降では16.5%で低く、まだ高齢者の感染は続き、年末年始にかけて第6波、第7波の沖縄のように、高止まりする可能性がある。

当院でも確保病床の拡大に向けてすでに対策を進めているが、一方で、社会は一層ウィズコロナに向かう。感染者もその家族も、ウィズコロナでの医療機関受

診のあり方に理解をいただき、第8波を乗り越えるために協力いただきたい。

何よりも急激な感染拡大を防止することが重要である。感染対策には引き続き注意いただきたい。

大村知事：

特に発熱した場合の冷静な対応を県民にはお声がけしていく。8月と比べ、冬は救急対応を行わないと命に関わるため、しっかりと周知、啓発を行う。

愛知県医師会 柵木会長：

感染状況について、厚労省が11月6日から13日に実施した、国民の抗体保有率が発表され、全国では26.5%とのことである。全国民の感染者で割ると約20%であるため少し高いようであるが、この数字はアメリカやイギリスと比較して相当低く、概ね日本での流行状況を反映して過去の感染者割合を示していると考えている。

沖縄県では46.6%、大阪で40.7%、最低の長野県では9%である。感染者の累計人口よりは全般的に高いが、検査をしていない人を含めるとそのくらいになると思っている。第8波の各県の人口当たりの新規陽性者数と、今回発表された抗体保有率を見ていくと逆相関している印象を強く受ける。つまり今まで多くの感染者を出している都道府県では第8波の新規陽性者数が少ない。沖縄県では第7波の時に多かった感染者が今は相当落ち着いていて、この数字を見てみると沖縄では集団免疫を獲得しつつあるのではないかと思う。

愛知県の抗体保有率は27.5%でほぼ全国並みであるため、感染がさらに拡大してもおかしくない。現在はオミクロンBA.5がメインであるが、その他の派生種がどの程度置き換わっているかを確認する必要がある。それによっては、今後の流行のピークや、どの程度のボリュームなのかを予測することができる。

ワクチン接種について、重症化予防に関しては効果的だと思うが、感染予防に関しては、データを見て、ワクチンがどの程度効いているのかを、しっかりと検証して国民にアピールする必要がある。そうしなければ、やはりワクチンを積極的に受けようというモチベーションが強くなるとは言えない。

また、インフルエンザの流行が特に重要である。今のところはっきりインフルエンザが増えてきたとは聞いていないが、政府はインフルエンザと新型コロナウイルス感染症患者を合わせて90万人が出て対応したいとのことである。もしこんな人数が出たら現場はととても持たないというのが率直な感想である。

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時測定ができるキットが市

販されたと聞いており、まだ品薄になるかどうかは分からないが、なるべく医療機関への供給を優先して欲しい。値段がどれぐらいとなるかは分からないが、あまり高いと医療機関に行った方が安いということにもなるため、これについてはよろしくお願ひしたい。

年末年始の救急医療体制については、現在、発熱外来をやらしてもらえる開業医などから手挙げで募集して体制整備に尽力しているところである。年末は結構手を挙げてもらえるが、正月は少ないため、感染の状況が本当に拡大してくるようであれば、改めて正月も会員の先生にお願ひすることも視野に入れないといけないと思っている。出来ることは何でもやり、お盆の時のように休日急病診療所に感染者が殺到するという状況は避けたい。

大村知事：

年末年始の対応について、何卒よろしくお願ひする。

同時検査キットについては、愛知県で5万個買ひ、医療機関は持っていると思うため、医師会、クリニックを中心に意見があれば対応する予定であるが、また相談させていただく。

愛知県病院協会 伊藤会長：

感染状況等について、少しずつ収まりつつあるという言い方が正しいか分からないが、増加率が低下していることは間違いないが、患者数は増加しており、万全の体制を維持する必要がある。病床確保については、後方支援の病院、在宅等を含めて連携をしっかりと強めていくことで、病床の回転率を上げ、何とか病床確保する努力をしている。

一方で、院内のクラスターの発生、施設のクラスターへの対応、職員の感染者、濃厚接触者は一定数必ずいるため、全体の病床の稼働がどうしても制限される状況が続いている。これに対して、医療機関の濃厚接触者の待機期間の短縮、PCR検査・抗原検査を常に行うことで何とか対応している。今後さらに感染が拡大すると、大変厳しい状況となることも懸念している。

また、救急について、搬送が困難な事例があることは、通常の状態からすると非常に危機的状況といえる。病院団体の中で話し合い体制を整えていきたい。

年末年始の医療の体制について、通常医療体制とは随分違うことになっており、年末年始に感染患者の入院の要請があっても十分な対応ができないことも心配している。どのような体制をとっていかを考えていきたい。

ワクチン接種について、効果に関しては今もはっきりしないところがあるが、

現在取り得る対抗策としてはワクチンをしっかりと打っていただくことと、感染予防に対して意識を持っていただくことが非常に重要である。緊急アピールの周知と、県民に理解いただくよう啓発をしていただきたい。

大村知事：

しっかりと啓発をしていきたい。引き続きよろしく願います。

名古屋商工会議所 内田専務理事：

医療体制維持に尽力していただいている医療従事者、行政機関に感謝を申し上げます。

感染者数、病床使用率ともに高い状況にあり、依然警戒すべき状況であり、今回の緊急アピールで県民に注意喚起をし、協力要請をすることは重要である。

会議所に相談がある中小・小規模事業者の状況について、コロナ禍でゼロゼロ融資により支援を受けた事業所のうち、業績が戻らず体力のない事業所では、運転資金が底をついてしまい、事業継続もままならない状況というところもある。事業継続の相談に来る事業所もあるが、最終的には3割が財務内容から廃業になってしまう状況である。

こういったことから、仕入先がコロナ禍以降、廃業続きで新たな仕入先の確保に苦労している事業所も多く見られる。加えて、原材料費、エネルギーコストの上昇、人手不足等が収益に大きく影響を及ぼしているが、価格転嫁が十分できていない事業所も多く見られる。

感染対策に十分注意し経済活動を続けていくが、業績が厳しい状況が続いている中小・小規模事業者に対して引き続ききめ細やかな支援をお願いしたい。

大村知事：

今後も中小企業対策をしっかりと行っていく。

一般社団法人中部経済連合会 栗原常務理事：

感染拡大防止に尽力していただいている行政、保健所、医療関係者に、改めて敬意を表するとともに、厚く感謝申し上げます。

年末年始の人の往来が増える時期を迎えるにあたり、全国の感染状況等も見ても、3密の回避、換気、マスク、手洗いなどの基本的な感染防止対策の徹底を改めて訴えるとともに、緊急アピールについても内容を周知して備えていきたい。

また、ワクチン接種について、重症化を抑える効果はあるが、感染拡大防止に

については疑問があるという意見もあったが、医療ひっ迫を避けるためにも、引き続きワクチン接種のPRの実施をお願いしたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

愛知県経営者協会 岩原専務理事：

医療関係者、県行政の協力を感謝を申し上げます。

第8波となり、感染者が増え入院状況が厳しい状況である。今回の緊急アピールについて、3番目の業務継続体制の確保のお願いについて、第7波で、職場にて欠勤者が出て、仕事の継続が難しい状況という声を多く聞き、企業が対応できるように簡単なガイドを作って使っていただいた。大変有効とのことであるため、今回も再度BCPの対応について企業と一緒に体制を作っていきたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

日本労働組合総連合会愛知県連合会 可知会長：

長期にわたり対応をしていただいている医療従事者、県職員へ敬意と感謝を申し上げます。

新規陽性者数や病床使用率等は、年末年始に向けて今後は心配である。

連合に加盟する方々からの声を伝える。サービス関連産業からは、宿泊や観光は全国の旅行支援なども相まって復調の傾向にあるという声をいただいているが、外食関係についてはまだまだという状況である。また、感染者の増加状況に応じてではあるが、年末年始、それ以降も感染防止対策と経済活動の両立を求める声が多い。

また、長期化するコロナ禍において不安定な雇用にある方、とりわけ、女性や外国人労働者などにコロナ禍が深刻な影響を及ぼしているという声が労働相談として寄せられている。1人親の家庭など、物価の上昇が元々苦しい家計に追い打ちをかけている状況であるため、こうした弱い方々への支援、きめ細かいサポート、即効性のある対応をお願いしたい。

全国一斉での労働相談を現在実施中であり、コロナ禍における様々な生活者の声を、また何かの機会に取りまとめて報告をさせていただく。

また、55万の組合員及びその家族に対して、引き続き感染防止に向けた県の

対処方針、感染防止対策の徹底、ワクチン接種の促進、本日のアピールなどについて周知を行っていく。

大村知事：

組合員への周知、徹底を改めてよろしく願います。

愛知県町村会 野村事務局長：

ワクチン接種の対象者に対し順次接種券を発送しており、接種のお願いをしている。しかし、新規陽性者がなかなか減らないという状況の中で、2週間後に学校は冬休みに入ることや、今月27日までの全国旅行支援が実施されており、年末年始に向けて人の移動がより増えると想定されるため、住民や事業者に対して今回のこの緊急アピールを周知するとともに、1人でも多くの方に年内にオミクロン株対応ワクチンを接種していただくよう引き続き努力していく。

また、医療ひっ迫防止対策強化宣言については、まだ発出するような状況にないとのことではあるが、万が一発出するような状況となり、対策を新たに実施する場合には、住民や事業者に状況を丁寧に説明したいため、現場が困らないように、これまで同様、県においては迅速丁寧な情報提供、助言指導等をお願いしたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

名古屋市保健所 医監：

先週の名古屋市の新規陽性者数は1万3,938人であり、前週から1.04倍増加しているが、増加率は徐々に鈍化しており、特に先週の金曜日から4日間は前週を下回っていた。そろそろ第8波のピークかと思っていたが、昨日、一昨日は再び前週を上回っている。しばらくは、ピークの状態で高止まりということで、これから忘年会や年末年始などの人の流れによって、一進一退の状態が続くと予想をしている。

一方、市内の医療機関に入院している患者数は一昨日で748人であり、確保病床の病床使用率は68%まで上昇している。救急搬送困難事例については少しずつ増えており、特に先週はいくつかの病院での院内感染発生により、入院調整に非常に時間がかかり、複数の病院に当たっても受入れ可能なところが見つからない状況となった。今週はそれらの病院が再び受け入れられるようになったため、何とか調整ができています。現在もぎりぎりの入院調整が続いており、再び

感染者数が増加すれば、入院が必要な患者が入院できないケースが出てくることを心配している。

感染状況が今後どう変化するか、正直先が読めないが県民の行動が今後を決める。今が分岐点である。医療ひっ迫を防止するアピールは、医療がひっ迫する前に出さなければならない。今、県民に感染拡大につながる行動の自粛を要請すること、また、限りある医療資源の適切な利用を呼びかけることは、適切な対応である。広く広報していただきたい。

大村知事：

感染傾向は愛知県全体と名古屋市で同様であり、ほぼ横ばい、高止まりという状況である。救急医療を含め、引き続きよろしく願います。

豊橋市保健所長：

新規陽性者について、11月に入り前週の1.2倍ぐらいの増加があった。先週は1.05倍となり、今週も横ばいになっている。

入院患者は現在138人である。病院内での患者発生が複数か所で起きており、3分の1の方が確保病床を有さない病院で入院している。もともと入院患者が院内で陽性となり、そのまま診ていただいている状況である。残りの患者は確保病床のある病院で入院しており、患者数はフェーズ2の稼働病床数と同じぐらいの患者が入院しているが、外からの患者が全く入院できない状況ではない。病院の中では一般病床でも診ていただいている。高齢者施設でも軽症患者を診ていただいております、入院病床のひっ迫はない。

外来について、多くの患者を診ていただいているクリニックに少し状況を聞いた。クリニック毎に差はあるが、患者が増加しており予約がすぐ埋まるという医療機関もあれば、12月以降は落ち着いているという意見も聞いている。ただし、小児科の医師からは、12月は幼稚園等のイベントが増えているせいか、幼児の患者が増えている印象を受けるという意見も聞いている。

今後、人の動きが増す年末年始については、慌てて救急受診をしないということを市民に周知していく。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

岡崎市保健所長：

感染状況について、名古屋市や県の状況と大差ない状態が続いている。前回の会議が約10日前であったが、そこから劇的な変化があったということはない。

昨日、日本公衆衛生協会主催のシンポジウムに参加したが、新型コロナウイルス感染症を振り返り、今後を展望するというテーマであった。

その中である先生が、過去の流行がなぜ下火になったのかについて、データを駆使して検討したところ、明確なことは不明であるが、第5波から第7波のいずれも、全国の病床稼働率が60%を超えた時点で不思議と収まったとのことである。もちろん患者数が減れば、病床稼働率は減少するため、鶏が先か卵が先かという議論にはなるが、当時は、全てのメディアが、自宅で重症患者が待機して入院できないとか、病床が無くて自宅で亡くなったといった報道をしており、それが無意識に国民の行動抑制につながった可能性があるとのことである。

個人的には納得でき、そうした側面から考えても、今回の宣言は同意する。

また、シンポジウムでは、沖縄の先生の話によると、自身の経験に基づき、ウィズコロナといっても、流行の第7波、第8波と言っていたり、診療は特定の医療機関に限る現状や、ワクチン接種の3回目、4回目、5回目と回数が話題となるうちは、ウィズコロナではないと思うとのことであった。ワクチン接種については、回数ではなく、インフルエンザのように今年の冬打ったか打たないかというレベルで話されるようにならないと、前に進まないとのことである。

周知のとおり、沖縄は第7波で、病床ひっ迫し、一般診療にも大きくしわ寄せが来た時期があった。そのため、その先生は、主な原因である高齢者施設での感染防止対策や治療に力を入れたとのことである。そこで感じたことは、沖縄の高齢患者の死亡場所は、当然施設や病院が多かったが、実際の死亡の原因の多くは、新型コロナウイルス感染症は軽症だが、基礎疾患等の悪化で亡くなるというものであった。このことから、一般の高齢者の死亡とどこが異なるのかを考えて、仮に新型コロナウイルス感染症以外の肺炎や感染症にかかった患者すべてを、入院医療機関に収容したら、おそらく、病床はすぐにひっ迫するだろうとのことだった。ましてや、新型コロナウイルス感染症は病床の限られた確保病床であるため当然のことであり、だからこそ、高齢者収容施設などでは、あらかじめ本人と家族が家族会議などで、終末期の問題を事前に検討しておく必要性があるとのことである。

第8波の流行が懸念される今、国中で病床確保が叫ばれていると思われるが、流行が始まるたびに、病床確保ばかり叫んでいるうちは、何も前進しないし、これは新型コロナウイルス感染症に名を借りた形で、日本の医療の高齢化問題が露呈しているのではとのことであった。

立場上、こうした見解に結論を出すことは恐れ多いが、意見には同意できる部分が多かった。現在時点では、今の対策は必要であるが、今後の教訓として、こ

うした視点も持っている必要がある。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

一宮市保健所長：

昨年4月1日に中核市になって以来、12月7日発表分までで一宮市民の感染者は79,225人となった。約38万人いる市民のうちの20.8%相当である。前回の会議時に11月25日付けで7日間計5,221人と報告した。この13日間で約4,000人の新規陽性者が生じており、1日当たり約300人ずつ新規陽性者が出ている。週単位では、11月17日の週は2,032人、24日の週は2,056人、12月1日の週は2,273人であり、高止まりで推移している。

入院状況について、12月7日時点では一宮市民で入院されている方は91人であり、前回報告時の11月25日付けで68人であったことから1.3倍に増加している。特に乳幼児、0～10歳の子どもで新型コロナウイルス感染症に罹患し、発熱して痙攣を起こした、又は急に元気を失い脱水症状を起こしたという事例がこの2週間ほどで約10件発生している。一宮市では、従来は小児が感染した場合は市民病院で診ることとしていたが、あまりにも数が増えたため、尾張西部医療圏医療協議会の中で他の病院でも診ていただくよう、役割分担を見直していただき、大雄会病院で多くの小児を入院させていただいている。市民病院の院長も話していたが、小児の場合、入院後に点滴を行うことで、2～3日で軽快し回復されるということである。今年に入り、全国で20歳未満の子供のうち新型コロナウイルス感染症で死亡した方は40人と聞いているが、一宮市は、幸いなことにこうした医療機関の尽力もあり0人となっている。

宿泊施設の入所者数は30人であり、前回27人と報告させていただいているため微増である。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

豊田市保健所参事：

先週からの新規陽性者の増加率であるが、12.5%増であった。10月の後半から増加傾向は続いているが、その増加率は50%台から徐々に落ちてきており、最近では10%台に落ち着いてきたところである。増加傾向は頭を打った感があるが、医療機関や高齢者施設でのクラスターの発生は相次いでおり、改めて適切な対応や感染防止対策の徹底を各施設にお願いしている。年代別では、先週

まで見られなかった傾向として、10代に代わり40代の感染者が増えてきている。

ワクチン接種について、1日当たり約2,000人が打っている状況である。予約では徐々に混み合ってきたところもあり、医療機関に接種枠の拡大をお願いするとともに、年内にできる限り多くの方に打っていただけるよう集団接種の実施日を増やして接種を加速していきたい。

大村知事：

いただいた意見を踏まえ、引き続き対応していく。

また、引き続き、国、市町村、医療機関としっかり連携し、万全の医療体制の確保、検査体制の強化、ワクチン接種について速やかに進めていく。

県民の命と健康を守ることを最優先に、本日から1月15日までの第8波の感染拡大抑制に向けて医療ひっ迫防止緊急アピールを発出する。感染防止対策の徹底及び医療体制の確保、特に発熱された方の対応について、すぐに病院に行くのではなく、まずは電話で相談していただき、夜間休日等の受診はできるだけ控えていただきたい。

年末年始の対応についても、引き続き医師会、病院協会に相談させていただき、万全の態勢をとっていく。

オール愛知で一丸となって、この年末年始、冬の厳しい状況を乗り越えていきたい。よろしく願いする。